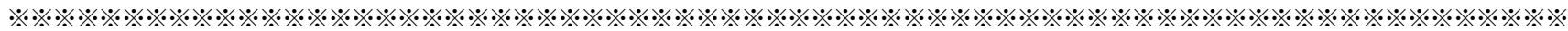


～安全と安心の共創～

2006年11月30日発行 11月号 No. 142



◇壮年部改めロジ研誕生を祝して

(社)東京都トラック協会 副会長 鈴木 憲興

壮年部の前身「物流研」誕生から18年の歳月が過ぎた。そしてこのたび名称を「壮年部」から「ロジスティクス研究会」と変更し、新執行部のもとシンクタンク的な機能を重視した組織が誕生したことにまずもってお祝いを申しあげます。

竹内新本部長の就任挨拶の中にあつたように、新生ロジ研は、東ト協の事業活動の中にある人材養成事業の対象組織として存続している。この点は新生ロジ研としてのスタンスとして重要なポイントであろう。東ト協の「冠」を付けたのであるから、東ト協の年度事業計画から独立しては存在しえない。なぜなら会務の執行にあたっては、ロジ研本部は「東ト協会長」、ロジ研支部壮年部は「当該所属支部長」の合意を得るものだからである。

壮年部時は、この役員の任務の条項で、誤解を招くことがあり、壮年部組織無用の意見があつたことも事実である。新生ロジ研として、東ト協常任理事会、理事会、評議員会、常設委員会に参画される人材を育成し輩出していただきたい。そしてロジ研としての研修成果を基に議論に参加されることを願うものです。

最近の法改正や、条例の制定等を見ると、各種業界団体が制定過程において、どの程度の関わりと業界意見が反映されているのか疑問に思うことが多い。例を挙げれば、都の環境確保条例は、何故に走行規制として使用過程車が7年という縛りで規制されたのか。それに続く国のNOx・PM法では、保有規制として普通車が8年、大型車が9年という年数制限が制定されたのか。また、来年6月に施行される中型運転免許制は、総重量5トン以上～11トン以下という範囲がどこで決まってしまったのか良く見えてこないことである。

環境問題でもそうであつたように、法、条例が決まってからの後追いの対応になってしまったのが現状であり、もっと積極的、能動的な関わりが、出来なかつたかと思う。政治力と関連するのであろうが、そのためにはどのような対応と対策が必要なのか、ロジ研の会員各位とともに探求して議論できれば幸いです。

結びに、新生ロジ研が同じ仲間として業界の健全な発展のため一緒になって行動する組織として奮闘されることを期待します。

◇第3回オープンセミナーを開催

研修副委員長 篠崎 眞 [板橋支部 (株)興真運送]

11月21日(火)18時から東ト総合会館において有限会社エイチ・アイ・プランニング 代表取締役 岩崎仁志氏を講師にお迎え、「安全と安心～幹部の重要性」をテーマにオープンセミナーを開催いたしました。

テーマが「幹部の重要性」という事で、ロジ研、女性部、青年部及び三組織会員会社の幹部社員等、約40名の出席をいただきました。

今回は、ロジ研の年間統一テーマである「安全と安心の共創」を会社幹部の重要性から見てご講演いただきました。物流業界を取り巻く動き、運輸安全マネジメント法の対応、改正省エネ法への対応からどんな物流企業が生き残るか自社の経営分析を行い、幹部(配車マン)の役割と使命を確認し、物流サービスのプロを育成する。強い会社を作るには、社員1人1人の参画意識を持って挑戦し続ける会社へと転換することが必要であり、経営者・幹部・社員の役割とは、社内における顧客第一主義の徹底とコミュニケーションがポイントであると力説された。

最後に、創造性と独創性が強い会社を生み出すエネルギーであり、先に制することが必要で、大手が出る前がチャンス。資本の時代ではなく、スピード、知恵そして勇気の時代、トライ&エラーでノウハウを蓄積。大手でも中小でもない、顧客への満足提供がポイント。そして現場力を高め、かつ情報武装を高めることが重要であるとご講演頂きました。

ご講演後は岩崎氏を囲んで懇親会を開催しましたが、その場の質問への回答でセミナーではお話頂けなかつた現実の事柄を聞き、今後の物流業界の在り方を強く感じさせられました。

◇温故創新セミナー参加報告

企画委員 山本 伸一 [千代田支部 芳和輸送(株)]

今年、ロジ研の企画委員を仰せつかりました山本伸一と申します。今回、企画委員会の2回目の企画として11月18日(土)～19日(日)の一泊二日で温故創新セミナー「運生まれの英雄、伊達政宗を訪ねて」というテーマで仙台、松島を訪ねました。参加メンバーは、竹内本部長をはじめ役員、会員の皆様のご協力をいただき、16名で実施することができました。

当日は天候に恵まれ、東北新幹線「やまびこ」にて一路仙台へと向かい、昼食後、青葉城⇒護国神社⇒瑞鳳殿を見学いたしました。伊達政宗は、別名「独眼竜」と言われ、5歳の時に瘡に罹り右眼を失明したそうですが、銅像には眼が入り込んでおりました。遺言として、将来自分の肖像に関するものには両眼を入れるようにと言い残したそうです。自分の醜い姿、コンプレックスをどこかで断ち切つたのではないのでしょうか? 政宗の墓所「瑞鳳殿」は、遺体が埋葬された上に建てられた桃山様式の透かし彫りの見事な彫刻と鮮やかな色彩の建物でしたが、残念ながら戦災で消失し昭和54年再建されたものでした。

翌日は、伊達家の菩提寺として政宗が1609年に4年の歳月と京都より200名の宮大工を集めて建立し、国宝に指定されている瑞巖寺を法務課長の案内で拝観しました。今回は特別に一般公開されていない庫裡(住職方の生活の場)、回廊(本堂と庫裡をつなぐ廊下で驚異になっている)、明治天皇一回のみ使用の御成り玄関など、築400年の歴史をもつ建物を間近に見学し感動しました。来年から創建400年ぶりに本堂の解体改修工事に着手するため10年以上拝観できなくなると言う話を聞き、今回の企画案を作成された飯島副委員長に感謝しております。最後に、今回参加いただいた皆様、車中、ホテルとも話題が途切れることなく、楽しく交流の場を作り盛り上げていただきありがとうございました。

◇壮年部長随想リレー

「わが町の紹介」

台東支部壮年部長 柴崎 光章 (株)シバサキ

弊社の隣に一葉記念館がある。先日 全面改装を終えて新しくなった、わが町のランドマークだ。樋口一葉が5000円札の顔になった当時は、かなりの人が記念館を訪れた。11月23日には一葉祭が開かれ、町内の人達の助力でなかなかの賑わいを見せる。

もう一つこの町のイベントがある。11月の酉の市。こちらは商売繁盛を願う人々が参拝に訪れ、普段は静かなこの町がとても盛り上がる。古い熊手をお返しして平素の無事を感謝し、新しい熊手には来年への期待を込めてお参りする。あちこちから聞こえる三本締め景気の良い音。そして露天の食べ物のいい匂いが、お酉様の風物詩にもなっている。

身近に季節を感じる事が少なくなった昨今、わが町には情緒豊かな催しや歴史を感じる風習などが残され、季節の移ろいを楽しむことが出来る。新しいものに迎合するのにも必要だが、昔からの伝統を守り次の時代に伝えることも我々の使命だと痛切に感じている。

《百文字のひろば》

ディーゼルを悪とする報道が多くみられるが、地球温暖化問題に厳しいドイツではディーゼルが主流となる動きです。実はきちんと手入れをすればガソリンよりも優れているのだ。その点を今一度考慮し、排ガス問題により廃業に追い込まれる会社が多い事を考えてもらいたい。

勝俣 之博[北支部 (有)三由運輸]

「商」 物売る人を商人、商の字源は子どもの生まれてくるところ、女陰だそうです。商の字の口は膾炙口だそうです。人類最古の商売は娼婦だそうです、やっぱりと思う人が結構いるんじゃないの、最古から未来につながる飽きない(商)、以上、聞いた話ですが?

高宮 茂男[板橋支部 高宮運輸(有)]